基盤的防災情報流通ネットワーク（SIP4D）

社会防災研究領域　総合防災情報センター／防災情報研究部門　半田 信之

Point

■運用開始から10年を迎え防災科研にてシステム更新を計画中
■内閣府の新総合防災情報システム（SOBO-WEB）との連携を進める
■産官学民を結ぶ防災研究・防災実務を結び付ける基盤システムを目指す

概要

SIP4D（エスアイピィフォーディ）は災害対応を行う様々な機関が保有する情報を「相互に共有する」ことで、対応機関間の状況認識の統一をはかり災害対応を効率的に実施できること目指し研究開発された情報流通基盤です。

内閣府が主導する「戦略的イノベーション創造プログラム」（通称：SIP）の一環として2014年より研究開発が始まり、プロジェクト終了の2019年以降は防災科研が運用を引き継ぎ、府省庁・都道府県・指定公共機関システムとの連接を推進してまいりました。最終的に31の都道府県がSIP4Dと接続し災害時における情報共有を実現し、さらに実災害を通じた実践的な研究成果が認められ2021年度にはSIP4Dの活用が国の防災基本計画に明記されることとなりました。

SIP4Dの研究成果は2024年に運用が開始した内閣府の新総合防災情報システム（SOBO-WEB）にも反映されています。

SIP4Dの研究成果である災害対応機関同士の情報共有機能や共通データフレームワークである「SIP4D-ZIP」がSOBO-WEBの機能として採用されました。災害実務は内閣府新総合防災情報システム（SOBO-WEB）がその中核となりますが、SIP4Dは防災研究の情報基盤として防災科研が運用を継続します。

今後の展望・方向性

SIP4Dは運用開始から10年以上が経過し、2026年度にシステムの更新を実施します。更新にあたりSIP4Dの基本コンセプトは継承しつつも次の10年を担いうる能力を備えた新たな基盤が必要であると考えています。

大容量のデータを迅速に処理でき、更に研究成果の実装が容易にできる見通しの良いシステム構成を実現することは勿論、AIなどの最新技術も柔軟に利用可能な防災情報基盤として生まれ変われるよう、現在検討を進めています。運用開始の暁には次世代を担える、産官学民を結びつける防災情報DX基盤として発展を目指します。

SIP4Dウェブサイト https://www.sip4d.jp/